

外務省職員の仕事学ぶ 松本秀峰

外交や国際情勢への関心や理解を深めてもらう外務省主催の「高校講座」が29日、松本秀峰中等教育学校で開かれた。同省経済局政策課の主査・井田瑞さん(29)が国内外に勤務してきた6年間の知見を交えながら、省職員の仕事を紹介した。3～5年生(中3～高2)の約240人が聴講した。井田さんは、首相の外遊や海外の要人との会談の準備

など、外務省の仕事を紹介した。会談時の席順の割り振りや出席国の国旗の手配など報道では伝わらない職員の話も披露し、担当したセネガル首脳との会談では、サッカー強豪国というお国柄から両国の親密さのアピールにつながればと、現地でユニホームの手配に奔走したエピソードも話した。

1、2年ほどで国内外での異動の機会があ



外務省職員の仕事などを学んだ高校講座

るといい「言語以上興味を持ち、日々学ぶに、いろんなテーマにことを楽しいと思える人が向いている」と呼び掛けた。

5年生の小松大祐君(17)は「ニュースで見ると外務省とは違った現場での働きを知ることができて良かった」と話していた。

30日には松本県ヶ丘高校で講座が開かれる。

(小野原裕一)

るといい「言語以上興味を持ち、日々学ぶに、いろんなテーマにことを楽しいと思える人が向いている」と呼び掛けた。